

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛

笠岡市用之江377

郵便番号714-0066

(0865)

電話 66-1311

FAX 66-1314



立教百八十九年
明けましておめでとうございます

昨年は年祭活動三年目の締めくくりの年を、それぞれの持ち場立場で懸命におつとめくださいり、誠にありがとうございました。

本年はいよいよ教祖百四十年祭が一月二十六日につとめられます。年祭当日まで勇んでつとめ切ると同時に、次なる塚へ向かつての歩みを、次なる成人を目指す心定めと共に歩みだして頂きたいと思います。また本年は年祭の年として、「目的を明確にしたおちばがえり」の実践を通して、教祖にお喜び頂ける年にしたいと考えていますので、よろしくお願い致します。

笠岡大教会長

上原明勇

教祖百四十年祭 笠岡大教会活動方針

つながろう、おやさまのお心に。

つなげよう、信仰の喜びを。

活動目標

ひながたを学び、そのお心を実践しよう。

実践項目

毎日、喜び・感謝を声に出そう



立教188年 年末大掃除

管理部

かさおか

立教189年(令和8年/2026年)1月21日 第65巻 第1号②

管理部(虫明立生)は12月22日午前9時から教会展、用木、信者ら60人余りで恒例の年末大掃除を行った。

午前8時半から神殿内の鳴り物・結界・賽銭箱などを廊下に搬出、また倉庫から脚立、ビデ、シート、長はたきなど神殿内に搬入して、午前9時から大教会長様のお手に合わせて親神様・教祖・靈様を礼拝、後それぞれの部署に分かれて大教会内の年末大掃除が始まった。

男性は親神様のお鏡の滑りを調整した後に、会長様が親神様の社の屋根の掃除を始めると同時に並行して他の人们たちは教祖殿、祖靈殿の社・神床に取り掛かった、更に白衣を付けた人たちで上段、中段と順番にブロアーをかけ水拭き・空拭きと作業を進め、仕上げに参拝場を水拭き・空拭きと2人1組が前後でを行い、同時に廊下にビデを移動して鴨居の上部を同じ作業で行った。



それぞれの持ち場で勇んでひのきしん

屋の清掃、トイレ掃除、窓拭き、食堂
ひのきしんとそれぞれの持ち場で勇ん
でつとめた。

正午頃にはだいたいの作業を終え道
でつとめた。

1年間、大教会の管理の上にお力添えを頂き誠に有難うございました。教祖140年祭の年も変わらずお心寄せ下さいます様、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

恒例のお餅つき ひのきしん実施

詰所掛

昨年12月27日、詰所で恒例のお餅つきひのきしんが行われました。

前日の本部祭典終了後、14時頃から精米洗いや、餅つきで使用する物品の準備を行いました。

当日27日は、朝7時から11時頃まで、30人ほどでお餅つきひのきしんを行わせて頂きました。

寒い中ではありましたが、お互いに声を掛け合い、陽気に勇んで、最後まで怪我なくつとめさせて頂くことができました。

ひのきしん終了後には、つきたての



心のこもったお鏡



息を合わせて



前日の餅米洗



餅揉師範による仕上げ



ベテランと新米

お餅と温かい豚汁を皆で頂きました。
教祖140年祭の残り期間も、つきたてのお餅のように心を一つにし、粘り強く、最後まで勤めさせて頂きたいものです。

(木津和分教会 丸山智旬)

■ 詰所からのお願い

詰所での宿泊・喫食について

- ・詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、2日前までには、必ず詰所へご連絡ください。
- ・食事をしない（宿泊のみの）場合でも、2日前には申し込みをして下さるようお願い致します。



(編集掛 岡崎)

これは、11月23日（勤労感謝の日）に開催される笠岡分会初のご臨席総会に向け、月に一度行うことになったもので、毎月第1または第2日曜日に行われる。

次回は2月1日（日）、笠岡詰所で布団干し・片付け等を予定している。

**大教会伏せ込み
ひのきしん実施**

青年会

青年会笠岡分会（瀬藤大喜）は、大教会での伏せ込みひのきしんとして、1月11日午前9時より、大教会敷地内の草刈り・清掃などを行った。

教祖百四十年祭 学生 おちばがえり 大会

2026. 3.27~28

おちばに集まれ

参加対象 新中3以上の学生

参加費 6000円 (現地参加4000円)
模擬店チケット代込

持ち物 お泊まりセット・はつび
筆記具・常備薬・席札 (別席を運ぶ人)
保険証 (コピー可)・折りたたみ傘

申し込み方法 QRコードから参加フォームへ
または笠岡学生担当委員会上原繁次まで

笠岡学生担当委員会

3月27日

8:15 笠岡大教会集合・出発
12:30 天理着/昼食/参拝
ゲームラリー/脱出ゲーム/
前夜祭/笠岡詰所泊

3月28日

10:00 式典
12:00 直属アワー
15:45 天理発
19:45 笠岡大教会着

QRコード

十二月月次祭祭文

この笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に会長上原明勇慎んで申し上げます

親神様の親心一杯の御守護とお導きを頂いて日々は結構に恙なく生活させて頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 気が付けば教祖百四十年祭に向かう二年千日と仕切つての年祭活動締めくくりの年も早やあと十日を残すのみとなりました 私共は朝夕に御礼申し上げると共に届かぬながらもたすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は本年納めの月次祭を執り行う日柄でございますので只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝の心も一入に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には寒さ忙しさも厭わず今日の日を楽しみに寄り集いました道の子ども達が相共に勇んでお歌を唱和する真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて年が改まれば いよいよ教祖百四十年祭でございます 教祖にお喜び頂けるよう 心明るく晴れやかな年祭を迎えるよう その日までそれぞれに定めた心定めの完遂を目指してつとめ切らせて頂く所存でございます 何卒親神様には年の瀬にあたり 新たな年が教祖百四十年祭にふさわしい年となるよう成人を誓う皆の誠眞実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り お望み下さる陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を一同と共に慎んでお願ひ申し上げます

立教百八十八年 十一月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	小唄	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	おつとめてをどり								地 方	役割	区分	講話	扈者	祭主	大教長	横山逸郎	中村道徳	中村弘治	
								佐藤	上原	今川	谷内伸自	森忠善	谷内伸自	杉本忠善	谷内伸自	佐藤	上原	今川	谷内伸自	森忠善	谷内伸自	佐藤	上原	今川	谷内伸自	森忠善
三島照美	山野なつ美	上原順子	吉岡教壽	三代温生	佐藤孝剛	中村元	門脇剛	田中ますみ	前原奥様	大教會長様	前大教會長様	佐藤真孝	上原浩彦	森谷浩彦	佐藤	上原	今川	谷内伸自	森忠善	谷内伸自	佐藤	上原	今川	谷内伸自	森忠善	谷内伸自
内海安子	吉岡八恵	門脇加津	岡田誠	岡田温生	中村昭史	高木祥	木林久治	岡崎喜	中村千枝初子	中村美知子	中村美知子	中岡崎立生														
高木孝子	田中つかさ	山野なつかさ	岡田真一	内海史郎	内田敏志	内田秀志	内田秀志	谷田隆之	室横山	室横山	室横山	室横山	室横山	室横山	室横山	室横山	室横山	室横山	室横山	室横山	室横山	室横山	室横山	室横山	室横山	室横山

二月講話	指図方	贊者	
		世話人・板倉先生	上原志郎
		谷内秀志郎	赤木素志郎

大教会だより

◎第一〇二期修養科

自立教188年10月1日
至立教188年12月27日

*教養掛(①主任、④副主任)

一ヶ月目 ④吉岡誠一郎

(大教会役員)

(興明分教長)

掛谷善樹

二ヶ月目 ③上原繁次

(大教会准役員)

(陶山分教長)

仙田公男

(天場山分教長)

(大教会役員)

(海松ヶ岡分教長)

河佐佐藤遙叶

(福東分教長)

*修了者

◎立教189年春季大祭参拝

*印は2月

笠岡講社 前会長様

驛島服東府上明皆新輝照吸東芳陶ひろきと興金摩陽弥鶴久島神高福
中石山美
家中部城市下市部邑濃陽江悠岡井山明浦耶備山山松根邊屋山
上武門今大田上門上前上岡前大田岡武上大中上大今中武田岡
原内脇川教中原脇原会原崎会教中崎内原島原原教川島内中崎
繁正元昌長隆繁元繁長志真長隆真正繁志誠志繁昌誠正隆真
道美教彦様之道教道様郎一樣様之一美道様治郎道様彦治美之一

上原澄雄さん

大教会幹部承事

1月3日出直されました。
享年 97才

計報

神錦湯葦美神之備中原陽免備中今門上原原志誠昌元繁志治彦教道郎
大教會長

昨年11月毎年受けていた健康診断の診断結果が送られてきた。例年同様、血液検査の欄は異常値を示す赤文字が並んでおり、中でも血糖値とHbA1cの数値は昨年よりもかなり高くなっていた。気はすすまなかつたが看護師をしている信者さん



に半ば怒られる様に病院に行けと言われ、しぶしぶ受診する事となつた。結果は立派な糖尿病。その日から薬の服用と食事制限をせざるを得ない事となつた。そうなつて初めて今までの自分の食生活や運動不足を後悔した。今まで何度もダイエットは試みてきた。決して高くなない目標体重を決め、達成すると気が緩みリバウンドしてしまう。それを何度もくり返し今回の診断に至つてしまつた。自ら始めるダイエットでは無く、半ば強制的に食事制限をせねばならぬ事となつたのである。私の場合、これまでの教祖年祭活動はこれに似ている気がする。年祭に向かって決して高くなない活動目標を定め私はこれに似ている気がする。年祭に向けて歩んでも、年祭を終えると大した事も出来てないのにやり切った感を出して完全に脱力してしまう。これでは次の年祭を迎える時には成人を重ねるどころかマイナスからのスタートとなってしまう。あと数日で教祖140年祭の日を迎える。ひとつのお祭りとしてこの日を晴れやかな気持ちで迎えさせて頂き、今回こそは、その後の通り方を教祖にお誓いして、次の塚に向かって歩み始めたいと思う。

(や)